

- 1 課題名 栽培漁業推進対策事業
- 2 区分 国庫補助
- 3 期間 昭和59年～
- 4 担当 養殖栽培部(向野幹生、南友樹)・
資源海洋部(土居内龍)

5 目的
栽培漁業の推進を図るために、栽培漁業対象種のマダイ、ヒラメ、イサキ、アワビ類について放流種苗の混獲状況等を把握し、放流効果を検討する。

6 成果の要約

(1) 調査方法

ア 放流種苗調査：マダイとイサキについては放流種苗の鼻孔隔皮欠損率、ヒラメについては無眼側体色異常率を調べた。

イ 有標識率調査：マダイは雑賀崎漁協、湯浅中央漁協に水揚げされた0才魚の鼻孔隔皮欠損魚の割合を調べた。ヒラメは雑賀崎漁協、湯浅中央漁協、比井崎漁協、南部町漁協の水揚げ魚の無眼側体色異常魚の割合を調べた。イサキは南部町漁協、田辺漁協の水揚げ魚の鼻孔隔皮欠損魚の割合を調べた。アワビ類は加太漁協において水揚げ貝のグリーンマークの割合を調べた。

(2) 成果の概要

ア 放流種苗調査：マダイの鼻孔隔皮欠損率は、和歌山市加太放流群(尾叉長76～119mm、120尾調査)が28.3%、由良町放流群(40～83mm、141尾)が9.2%であった。

ヒラメの無眼側体色異常率は、由良町放流群(全長60～103mm、89尾調査)、御坊市放流群(56～92mm、58尾)ともに100%であった。

イサキの鼻孔隔皮欠損率は、田辺市放流群(尾叉長37～71mm、223尾調査)が23.0%であった。

イサキ種苗の鼻孔隔皮欠損率は、2004年度までは50%前後であったが、前年度には29.5%となり、低下傾向が見られる。

イ 有標識率調査：マダイについては、今年度秋期以降0歳魚の漁獲が非常に少なく、標本魚が入手できず調査ができなかった。

ヒラメの無眼側体色異常率は、雑賀崎漁協(11～3月、961尾調査)で8.1%、湯浅中央漁協(周年、1,639尾調査)で13.4%、比井崎漁協(9～4月、1,050尾調査)で7.7%、南部町漁協(9～4月、5,980尾調査)で5.2%であった。

イサキは計2,232尾を調査し、鼻孔隔皮欠損魚は1歳魚3尾、2歳魚6尾、3歳魚1尾、4歳魚1尾の11尾を確認し、鼻孔隔皮欠損率は0.49%であった。

加太漁協におけるアワビ類の有標識率は、クロアワビで71個体を調査して42.3%、メカイアワビで66個体の90.9%、マダカアワビで143個体の0%であった。クロアワビの有標識率はこれまで20～30%台であったが、本年度は40%を上回った。マダカアワビは1998・99年のみの放流で、放流貝の漁獲が年々減少していたが、本年度には確認されなかった。

7 成果の取り扱い

(1) 成果の普及

各々の調査で各漁協に赴いた際に漁協職員や漁業者に調査結果の概要を説明した。

(2) 成果の発表

和歌山県栽培漁業推進協議会